

# 令和3年度 校内研究会 概要

北杜市立長坂小学校

## 1 研究主題について

- 研究主題 主体的に学びに向かう児童の育成
- 副主題 ～深い考えを育む対話型授業を通して～

### ○主題設定の理由

#### 【学習指導要領より】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指す」

《小学校学習指導要領（平成29年3月告示）P.17【総則】》

#### 【本校の校内研究より】

本校の校内研究は、「主体的に学ぶ児童」「柔軟に考える児童」の育成等を目指し、対話の方法や効果的な教材・教具の開発を中心に授業改善を目的とし、研究を重ねてきた。今までの研究の成果としては、「見通す・学び合う・振り返る」という学習スタイルの定着、対話の「系統的指導」の充実、児童の対話スキルの向上、ユニバーサル・デザインを取り入れた授業の構築等を挙げることができる。児童は対話を通し、主体的に考え、自分の考えを広げたり再構築したりすることができるようになってきた。

昨年度は、体育科の授業における効果的な対話の用い方について研究を深めた。反省の中では「長坂小が培ってきた対話のスキルは、体育の授業でもしっかりと生かされていた。」という意見がある一方、「対話を授業で用いる中で形式的になっていないか」「児童の考えやつぶやきを大切にしているか」「子どもたちが生き生きと学び合っている姿に向かっていく研究を行いたい」等の意見も見受けられた。

今年度は、授業改善を軸とし児童の主体性にもう一度焦点を当てて、研究を進めていきたい。児童が主体的に学ぶ（学びに向かう）ための手立ては様々考えられる。本校が継続的に取り組んできた「対話型授業」の研究もその1つである。対話（自己内対話・他者との対話）を通し、児童が新しい発見をしたり、考えを再構築したりすることで、より自分の考えを深めることができる。自分の考えを深めることは、共に学び合うことの楽しさや喜びを味わうことにも繋がるだろう。児童の主体性はそのような過程からも育むことができると考える。

また、教職員の転出入や新規採用等により、指導体制が大きく変化する昨今、本校が継続的に行ってきた研究をもう一度見直し、研究への意思統一を図ることも重要である。全教職員が一丸となり「主体的に学ぶ児童の育成」を目指すため、「深い考えを育む対話型授業の構築」についての研究を深めていきたい。

その他、「ICTに関わる教育」「支援を必要とする児童への関わり」においても適宜、学習の場を設定していきたい。

○重点目標と手立て

「児童が学びに向かう教材・教具の工夫」

(手立ての例) 意欲を喚起させる学習課題、意図的な発問、分かりやすい教具 … 等

「考えを深めるための対話型授業の創造」

(手立ての例) 対話の目的や意図・形態、児童の考えへの対応 … 等

○研究内容

☆対話型授業に関する研究・・・「深い考えとは」

「自己内対話」と「他者との対話」

「対話のスキルアップ」

(その他)

- ・教材提示・課題設定・発問等の工夫
- ・各教科（国語科・算数科等）における本校児童の実態と課題の把握
- ・研究授業や授業参観の積極的な導入
- ・校内または教室の環境整備や、教具づくり等の授業を支える取組
- ・ICT機器の効果的な活用
- ・ユニバーサル・デザインの継続的な取組
- ・板書綴り（活動）
- ・家読、家庭学習

○山梨県総合教育センター研究協力校

「学習障害のある児童への支援の充実に関する研究

～アセスメント方法、指導方法及び教材教具の在り方について～」

・授業観察 ・適宜指導助言 ・山梨大学アドバイザーとの連携

○研究組織

- ・授業部会…①低学年ブロック ②中学年ブロック ③高学年ブロック
- ・専門部会…①研究推進部 ②授業支援部 ③環境整備部

※研究推進委員は、校長・教頭・教務主任・研究主任・授業部会長（必要に応じて）とする。

※全職員が【専門部会】【授業部会】それぞれに所属する。

※各部の活動内容

- ・連携推進部…保護者・地域の方々との連携の推進や、コミュニティ・スクールに関わる活動を行う
- ・授業支援部…学習規律の確立、教材・教具づくり等に取り組む
- ・環境整備部…校内掲示の検討や作成、自学・家読の作成等を行う

※授業部会は、低・中・高学年の3つに分かれ、研究授業等の検討を行う

※略案を用いて、互いの授業を見合う（ブロック研）の積極的な導入を行う

※日々の実践を見合う授業参観も継続して行う

○研究の日程・流れ

4月16日	研究推進委員会 ※今後、必要に応じて開催する
4月19日	第1回 昨年度・今年度の研究について
5月24日	第2回 理論研究 講師 多田孝志 (金沢学院大学 文学部教育学科 教授) 資料 「10年後の教育に向けて」
6月28日	第3回 授業部会 研究授業について
7月26日	第4回 理論研究 講師 三枝 寛康 (教育庁 義務教育課 しなやかな心の育成担当 副主幹・指導主事) 内容 「QUテストについて(仮)」
8月23日	第5回 研修会の環流・授業部会 ※夏期休業中
9月27日	第6回 授業部会・環境部会
10月 6日	第7回 授業部会
10月25日	第8回 研究授業(ブロック1つ)
11月22日	第9回 研究授業(ブロック1つ)
1月31日	第10回 研究授業(ブロック1つ)
2月28日	第11回 今年度のまとめ・研究紀要の発行にむけて

予定を変更し、研究授業や理論研究、講師を招聘しての学習会などを行うこともある  
初任者の研究授業は適宜、設定する